

令和 8 年 7 月 27 日

調 査・研 修 報 告 書（会派個人用）

会派名：さとやま未来クラブ

報告者：岡野 茂

実施場所：三次市役所	実施日：令和 8 年 7 月 21 日（火）
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） コンパクトシティ＋ネットワークの計画づくりがスタートしている。特に中心街地のにぎわい創出、と都市機能の充実をどのように図るかが重要な課題となるが、その中でも中心市街地の交通システムの利便性の向上と再構築が不可欠で定時定路線のひまわりバスの見直しが求められている。	
■参考とすべき事項 ○運行概要は毎日 9：00～17：00、12 月 29 日～1 月 3 日は運休 運行開始は令和 8 年 4 月 1 日スタート 車両はトヨタハイエース 2 台で運行 運賃は大人 300 円・小中学生 150 円・障がい者 150 円（介護者 150 円） ○のるーと三次 A I オンデマンドバスは市街地 8 km ² の区域に 150 か所の乗降ポイントを設置し半径 300mの同心円で運行区域をカバーしている。 ○電話、専用アプリ、LINE で利用予定日の 6 日前から直前まで予約可能。また、市民以外の方も利用可能となっている。 ○予約すると 15 分以内に到着し目的地まで 20 分以内で到着する。 ○利用者・登録者数は増加傾向、利用状況は 70 代以上が 45.7%、10 代以下が 25.9%となっている。 ○運行・オペレーターは受託バス事業者である(株)備北交通、タクシー業者 3 社から運転手が出向して運営されている。当初、バス事業者にタクシー客が奪われるとの懸念があり話し合いの結果、バス事業者とタクシー事業者がタッグを組んで運行されている。(株)備北交通が受託者受託額の 25%、タクシー事業者 75%となっている。 ○A I システム・運行支援はネクスト・モビリティ(株)が受託している。 ○令和 8 年度予算 運行予算 16,500 千円（内補助金 3,235 千円・一般財源 13,265 千円）	

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

○庄原市も定時・定路線のひまわりバスを見直し、コンパクトシティ＋ネットワークの計画に合わせA I オンデマンドバスを導入し移動手段の充実を図るべきと考える。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調 査 報 告 書

会派名：さとやま未来クラブ

報告者： 宇山 茂之

視察先：広島県三次市（三次市役所 地域共創部 まちづくり交通課）	視察日：令和 8 年 7 月 21 日（水）
視察の目的・本市の課題 庄原市は人口 3 万人割れと、4 年で基金が底を突く財政危機に直面しており、「空のバス」が走る現状の改革が急務です。現行交通の課題は「地区外への移動不可」という制約にあります。人手不足や非効率を解消し、「行きたい時に行ける」持続可能な交通体系を提案するため、三次市の AI バスを視察しました。	
視察で参考となった事項 三次市の「のるーと三次」の視察から得た、本市が参考とすべき主な事項は以下の通りです。 1. 高効率な利便性 AI による最適ルート算出で、待ち時間・乗車時間を短縮。区域内を 150 の乗降ポイント（半径 300m 圏内）で網羅し、満足度 94%を達成しています。 2. 官民・業種を越えた連携 バス 1 社とタクシー 3 社が連携し、運転手を出向させる独自の運行スキームを構築。地域資源を一体化させて安定運行を実現しています。 3. 多世代利用と財政負担抑制 利用者の約 4 割は高齢者ですが、4 分の 1 は 10 代の若者が占めています。また、各種補助金や企業版ふるさと納税を戦略的に活用し、市の一般財源支出を極小化しています。	
提言・その他（庄原市の施策にどのように生かすことができるか、など） 視察結果に基づき、本市の施策に以下を提言します。 1. 「地区の壁」の打破 既存の運行区域の制限を緩和し、地区を跨いだ広域移動を支援する仕組みに AI を活用すべきです。 2. 対話重視の導入 AI はあくまで「道具」であり、導入には市民の「心」に寄り添う対話を最優先すべきです。 3. 施策の連動と財源確保 通学支援などの教育施策と連動させ、若者に選ばれる基盤を構築するとともに、基金に頼らない外部資金の確保を強く求めます。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

令和8年7月27日

調 査 報 告 書

会派名：さとやま未来クラブ

報告者： 青山 学

視察先：広島県三次市（三次市役所 地域共創部 まちづくり交通課）	視察日：令和8年7月21日（水）
視察の目的・本市の課題 人口減少や高齢化が進む中、地域公共交通の利用者減少や運行経費の増加は、庄原市においても大きな課題となっている。 三次市が導入したAI オンデマンドバス「のるーと三次」の運行状況や導入の経緯を調査し、庄原市における持続可能な公共交通のあり方を検討するため視察を行った。	
視察で参考となった事項 中心市街地でのデマンドバスの利用者の割合で10代が約25%という数字は、そのまま庄原市に当てはめる事は出来ないが近い数字で10代のニーズがある指標となった。 利用予約については、60代以下がアプリや公式LINEからの登録となっていた。三次市の公式LINEの登録者数が約1万7千人といったところからも、市の公式LINEには多くのメリットがあり促進していくべきである。三次市の職員からも公式LINEは至る所でPRをしていたとの回答を受けた。	
提言・その他（庄原市の施策にどのように生かすことができるか、など） 三次市は市街地巡回バス「くるるん」の運行を終了した。利用者のニーズや定時定路線のコスト等でデマンドバスのメリットが明らかに大きかった。遠くの町の事例でなく隣の市であり、人口規模も大きく変わらない三次市の先進事例として、デマンドバスは取り入れるべきである。庄原市の場合では夜間の交通がない状態であるため、三次市に比べて夜間のデマンドバスについては導入の可能性も高く、必要であると考える。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

令和 8 年 7 月 27 日

調 査 報 告 書

会派名：さとやま未来クラブ

報告者： 堀内 富夫

視察先：広島県三次市（三次市役所 地域共創部 まちづくり交通課）	視察日：令和 8 年 7 月 21 日（水）
視察の目的・本市の課題 人口減少や高齢化が進む中、地域公共交通の利用者減少や運行経費の増加は、庄原市においても大きな課題となっている。 三次市が導入した AI オンデマンドバス「のるーと三次」の運行状況や導入の経緯を調査し、庄原市における持続可能な公共交通のあり方を検討するため視察を行った。	
視察で参考となった事項 三次市では、従来の中心市街地循環バス「くるるん」に代わり、令和 7 年 12 月から AI オンデマンドバス「のるーと三次」の実証運行を開始し、令和 8 年 4 月から本格運行している。 利用者が電話・アプリ・LINE で予約すると、AI が効率的な運行ルートを設定する仕組みで、約 8km ² の区域内に約 150 か所の乗降ポイントが設けられている。 運行にはバス事業者だけでなく、市内のタクシー事業者も参画しており、地域の交通事業者が連携して公共交通を支える体制となっている。 利用者数は運行開始後増加しており、特に高齢者や子どもの利用が多い。高齢者には電話予約、若い世代にはアプリや LINE が多く利用されるなど、複数の予約方法を用意することの重要性も確認できた。	
提言・その他（庄原市の施策にどのように生かすことができるか、など） AI オンデマンド交通は、利用者の利便性向上と運行の効率化を両立する手法として、庄原市においても検討する価値があると感じた。 一方、三次市では中心市街地約 8 km ² を運行区域としているのに対し、庄原市は市域が非常に広く、各地域が離れている。そのため、単純に同じ仕組みを導入するのではなく、各地域内の移動手段、各地域と庄原中心部を結ぶ交通、路線バス・タクシー・デマンド交通の役割分担を一体的に考える必要がある。 今後の公共交通再編においては、従来の路線や運行方法の維持を前提とするのではなく、利用者の移動ニーズを起点として、地域の実情に合った交通体系を構築していくことが重要である。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

令和 8 年 7 月 27 日

調 査 報 告 書

会派名：さとやま未来クラブ

報告者： 木山 義仁

視察先：広島県三次市（三次市役所 地域共創部 まちづくり交通課）	視察日：令和 8 年 7 月 21 日（水）
視察の目的・本市の課題 ○人口減少や高齢化が進む中、地域公共交通の利用者減少や運行経費の増加は、庄原市においても大きな課題。 ○三次市が導入した A I オンデマンドバス「のるーと三次」の運行状況や導入の経緯を調査し、庄原市における持続可能な公共交通のあり方を検討するため視察を実施。	
視察で参考となった事項 ○三次市では、中心市街地の居住者に向けた交通だけでなく、周辺地域からの 2 次交通や観光・ビジネス向けとしても位置付けているものの、対応が難しい状況にあった。 ○こうしたなか、従来の中心市街地循環バス「くるるん」に代わり、A I オンデマンドバス「のるーと三次」の実証運行を開始し、令和 8 年 4 月から本格運行を開始。 ○支払いは、現金及びアプリとの連携によるクレジットカード決済、車両は 2 第導入し、予約は電話・専用アプリ等による。 ○乗降ポイントは、市内約 150 か所で、半径 300 メートルの運行区域をカバー。 ○地域の交通事業者が一体となった運行スキームを構築。 ○利用者数・登録者数は増加傾向にあり、利用者の約半数が 70 代以上であり、60 代以下の大半が専用アプリや LINE による予約。 ○利用者満足度が 94.0%と非常に高い。	
提言・その他（庄原市の施策にどのように生かすことができるか、など） ○本市においても、A I オンデマンド交通の導入について検討が必要と史料。 ○一方、本市は市域が非常に広く、地域ごとに人口や地域条件が大きく異なっていることから、各地域と本市中心部を結ぶ公共交通についても検討が必要。 ○また、本市においては、交通事業者の運転士不足が大きな課題であることをふまえ、総合的かつ迅速な検討が必要であると思料。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。